泣く子も黙る感染対策

坂本史衣

（ここまでできれば）

鉄壁。

中外医学社

そんな感染対策の理想を
感染症専門誌 J-IDEO

現実的にアツく語った
連載、堂々の書籍化！

泣く子も黙る感染対策

坂本史衣
聖路加国際病院　QIセンター感染管理室

中外医学社

◆ 生命を脅かすハザードと複雑な構造を持つにもかかわらず，きわめて高い安全性，質，そして効率を長期間維持している組織を何というか.

A．加算１算定施設　　B．特定機能病院

C．高信頼性組織　　D．優良企業

1

感染対策がうまくいく病院の５つの特徴

本書のメインターゲットは臨床現場で感染症診療あるいは感染対策に従事する方なので，今このページを開いている方の多くは，実務に役立つ情報が得られることを期待されていると思う．もちろん，そのようなご期待に沿える内容にしたいと考えているが，具体的な感染対策について語る前に，そもそも感染対策がうまくいく組織にはどのような特徴があるのか紹介したいと思う．そのため，話の内容がやや概念的になるが，お許しいただきたい．概念的ではあるが，感染対策に従事するすべての人が避けて通ることはできない重要なテーマである．

本書で取り上げる個別具体的な感染対策は，組織の医療の質や安全性を支える一本，一本の柱である．しかし，組織の土台が強固でなければ，柱の効果を見る前に，それらを立てることすら困難である．

病院のように，生命に関わる多種多様のハザードを抱える複雑な組織は，航空，宇宙，軍事，レジャー産業などに存在するが，それらの組織は長期にわたり，きわめて高い安全性，質，そして効率という強固な土台を維持していることから，high reliability organizations（HRO: 高信頼性組織）と呼ばれる[1)]．

HRO を HRO たらしめているのは，作業手順の標準化といった運用的側面以上に，いかなる状況においても安全を最重要視し，容赦なく追及する姿勢であり，そこから生じるレジリエンスである．その結果，HRO には，以下に示す 5 つの特徴がみられるとされる．

本項では，HRO における感染対策の進め方の例を，より信頼性の低い組織―ここでは LRO（low reliability organizations）と呼ぶことにする―と対比させながら，感染対策によって医療の質が高まり，安全性が向上する病院，すなわち，感染対策がうまくいく病院の特徴を明らかにしたいと思う．

特徴 1　安全性を脅かしかねない些細な兆候を見逃さない

これまで何ヵ月も，何年もエラーが起きていないことに安堵せず，エラーの兆候を積極的に探り，早期に対応する．普段から 1 例のエラー発生をも許容しない厳しい姿勢を保っている．

JCOPY 498-02146

HROでは…	LROでは…
ICU で MRSA による中心ライン関連血流感染（CLABSI）が 2 年ぶりに発生したことが気になり，感染対策を確認したところ，MRSA 保菌患者病室に入退室する際の手指衛生実施率が 40%台に低下していることが判明した．データを ICU スタッフと共有し，手指衛生のタイミングを見直したところ，その後は発生を認めなかった．	これまで自院で CLABSI が大きな問題となることはなかった．疑わしいケースは散発的に発生しているようだが，血液培養を採取する習慣がないので，正確な数はわからない．たいていはラインを抜去すれば解熱するため，積極的に予防策は講じていなかった．ところが ICU で 1 ヵ月以内に 2 名の患者が MRSA による CLABSI で死亡したため，保健所の指導を受け，急きょ感染対策を見直すことになった．

特徴 2　周囲の状況や過去の経験を単純化しない

安全性への脅威は複雑で，多様な形で現れるため，あらゆる状況に適応できる単純な「ベストプラクティス」は存在しないと認識している．脅威ごとの細かな違いをとらえることで，安全性を損なう状況を早期に把握し，修復不可能な状況に陥る前に対処している．

HROでは…	LROでは…
ノロウイルスの疫学を考慮した上で，疑い例を早期に発見するための疾患定義，発症者の隔離・就業制限，濃厚接触者の移動制限，吐物処理を含む包括的な手順が定められている．さらに病棟や患者の特性に合わせて対策をカスタマイズするために感染対策担当者に報告と相談を行う体制が確立され，毎年活用されている．	吐物処理キットの適切な使用方法に関する研修をノロウイルス感染症対策の主軸としている．毎年研修を繰り返しているが，毎年アウトブレイクが発生している．

特徴 3　期待されるパフォーマンスから日常業務が逸脱している状況に敏感である

逸脱につながる危うい態度や状況，実践を認めた場合，職員は気兼ねなく上司に報告できるだけでなく，そうすることを義務だととらえている．組織もこれらの情報について，組織の最優先課題である「完璧に近い安全性 near-perfect safety」を達成するために不可欠な要素と位置づけている．

部門間のコミュニケーション不足，威圧的な態度などは上記の情報提供を阻害する．大声やモノを投げるといった暴力的な態度に限らず，連絡に応答しないこと，慇懃無礼な言葉，質問に対する苛立ちなどが威圧的と受け取られることが多い．